

公民館だより

平成26年8月15日発行【第345号】

題字：前衛書家「吉川壽一」先生

発行元

吉崎公民館

福井県あわら市吉崎 8-34

郵便番号 922-0679

電話 0776(75)1205

komin-yoshizaki@city.awara.lg.jp

『創作オペレッタ』 熱演!



夏だ! 祭だ! 『第33回吉崎湖畔の夕べ・夏まつり』 ★ ★

7月26日(土)、吉崎なぎさ公園を主会場に「第33回吉崎湖畔の夕べ・夏まつり」が橋本あわら市長をはじめ多くの来賓をお迎えし、また、吉崎地区はもとより大勢の周辺住民の参加を得て盛大に開催されました。

吉崎なぎさ公園特設ステージでは、嶺北消防組合「太鼓隊」の演奏を皮切りに、吉崎小学校児童17人が本光坊を題材とした創作オペレッタ「腹ごもりの聖教」を披露しました。

また、吉崎地区有志や児童による踊りや、吉崎詩吟クラブ、カラオケクラブの方々が日頃の練習成果を発表しました。

ライブでは、『金津三弦会』は三味線の演奏、『Something For Others (音泉組)』は会場と一体になって盛り上がりました。



お知らせ

9月7日(日) 午前9時～ 吉崎小学校校下合同運動会

(予備日 9月21日(日)、予備日雨天の場合は体育館にて実施)



北潟湖畔では、吉崎振興会と有志の方々に制作された高さ1.5mの大きな灯籠5基が、日没と共に灯りが点り、幻想的な風情を醸し出しました。

また、「湖畔の夕べ」ならではの野点（呈茶）では、湖面を吹きぬける涼風を感じながら優雅な一服を味わっていました。

会場内一画においては、青壮年団が運営する名物屋台や縁日コーナーが並び、祭り気分を盛り上げて終始大勢のお客で賑わっていました。

今回も、福井新聞社・FBC福井放送・FM福井・福井ケーブルテレビ・さかいケーブルテレビより後援をいただき、また各方面でも協力をいただきました。

受付や記録、展示監視から交通整理など各分野においても多くの皆様の献身的な協力をいただきました。この様に住民が一致団結して、地域への連帯感と、区民相互の親睦を深めるイベント（夏まつり）が出来たことを喜んでいます。

実行委員会の皆さん、協力して下さった各種団体の皆さん、そしてご来場いただきました大勢の皆さんありがとうございました。

「第33回湖畔の夕べ・夏まつり」作品展示



吉崎公民館作品展示会場では、吉崎小学校児童、幼稚園園児の作品をはじめ、公民館定期講座生の作品、趣味を活かして作られた個人出展の作品、また特別展示として出展いただきました「金津創作の森」入居作家の作品などを展示いたしました。初日より小学生からお年寄りの方、また地区内外から大勢の皆さんがご来場になり、作品一つ一つゆっくり時間をかけ熱心にご鑑賞されていました。

また、快適な展示会場は、展示も見やすく大勢の皆様にご来場いただきたくさんの感想をいただきました。

『 消 防 総 合 訓 練 』



8月3日(日)、嶺北消防組合の消防総合訓練が坂井市三国町宿で約1000名が参加して行われました。

横転した電車からの救助者救出、土砂災害により生き埋めになった自動車や家屋の中からの救出訓練も実施されました。吉崎・浜坂の嶺北あわら消防団第3分団は、日頃の訓練の成果を十分に発揮いたしました。

「優勝を出来なくて悔しい! (団体の部)」



『交通安全子供自転車福井県大会』
吉崎小学校チーム

7月12日(土)、ニューサンピア敦賀で「第49回交通安全子供自転車福井県大会」が県下小学校11チームが参加の下行われ、個人の部入賞者で湯谷のの香さん5年生が優勝しました。また、団体の部入賞校では見事3位になりました。

あわら警察署、交通安全協会の皆さまの熱心なご指導や保護者の皆さん応援の甲斐もあり好成績を納める事が出来ました。

次回は、この悔しさを胸に雪辱を果たし、団体の部でも優勝してくれることを期待します。

『友情を深める・・・』 8月2日(土) 真宗大谷派福井教区主催、「第2回 福島キッズリフレッシュキャンプ in 福井」に、子どもたちの交流として吉崎っ子が参加しました。

福島っ子とおそろいのTシャツに着替え、ドッチボールや風には流しそうめんをいただき(^.^)夜はバーベキューで交流を深めました。



『おもてなしの心とは！』

国指定「吉崎御坊跡」を有し、歴史と文化が現代に脈々と受け継がれてきた吉崎はあわら市の誇りです。

「蓮如の里」として親しまれてきた吉崎は、観光地として近年多くの方々を訪れます。

「吉崎語り部の会」では、観光に来られる皆さんに少しでも吉崎を知っていただきたいと、毎日おもてなしの気持ちをいっぱいに対応しています。

また、ネット、車社会、地域と地域など壁がなくなってゆく現在、他の地域からお越しいただく人々に心のこもったおもてなしの心で対応、応接を心がけこの地を訪れる人が何度でも訪れたいくなる「魅力あふれるまち」になることを目標にしています。

温かく相手を受け入れ、心を込めて接し、思いやりを持って振る舞う「もてなしの心」、このように、吉崎の豊かな地域社会の形成は「もてなしの心」を皆で共有することによってつながります。これからも、皆さんと「おもてなしの心」をさらに醸成していければと考えています。



吉崎語り部の会



また、広い松林の中に点在している、高村光雲作「蓮如上人像」をはじめ、「千代女句碑」、古岡にも出ている「お腰かけの石」、「見玉尼の墓石」などの名所旧跡を案内し、はるか昔の人々の所作に思いを馳せていただきました。

お礼状では、「感動をいただきました！」、「福井県が大好きになりました！」との感謝のお言葉もいただき、何よりの励みとなっています。吉崎語り部の会では、「吉崎に来てよかった！」と感じていただけるよう今日の出会いを大切に、おもてなしの心を持って取り組んでいます。

『クールジャパンを海外に発信！』 稲田担当相が講演

蓮如上人が吉崎に御坊を構えたとされる「吉崎建立記念日」7月27日（日）に、蓮如上人記念館にて「クールジャパン・ジャポニズムを世界へ in 福井」が開催され、稲田朋美クールジャパン戦略担当相をお迎えして基調講演やパネルディスカッションが行われました。

「世界福井化計画」と題し稲田担当相は「私たちそれぞれが、日本の良さを再発見し世界に発信するかが大切です」と訴え、約200名の参加者とともに日本や福井のクールを世界に売り出すための戦略などについて考えました。



吉崎「鳥ものがたり」(3)

●スズメ：茶色っぽい色で、「チュン」「チュッ、チュリ、チュッチュッチョン、チュッチュッ」などと鳴く。草木の種子や実、昆虫などを採食する。知らない人がいないくらい身近な野鳥で、人家に巣を作るため目につきやすい。

研究によると、廃村になり、人がいなくなった集落からはスズメもいなくなる。人の近くで生活することで餌（水田や畑）や安全（天敵の蛇やカラスから身を守る。）を確保する知恵である（ツバメも同じ）。

ここ20年間でスズメの数が半減（2008年：全国で約1800万羽）したと推定されている。原因はハッキリしないが、都市部では「食糧不足」による少子化が進み1家族平均1.6羽である（4～5個産卵）。また、「住宅難」も大きい。近年の住宅は省エネ効果を高めるため、「隙間」が少なく、巣を作ることができないことも一因である。

秋になると幼鳥たちは新天地を求めて群れになって移動する。300kmも移動した記録がある。

日本野鳥の会福井県副代表 組頭五十夫 氏



創作の森を訪ねて『imagingture』不思議なアートの世界



7月21日（月）、金津創作の森で開催中の、「imagingture」インタラクティブアート展に行ってきました。会場は、木・石など自然の素材と、コンピュータや電子回路、映像装置を組合せ未来の自然との関わり方などを考察することをコンセプトにつくられた作品で、手で触れたり、加えたりすることで作品が変化するなど不可思議な自然空間が出現しています。

テーブルの上に置かれた石に触れると、不思議なフォルムの生き物が現れる作品や、さまざまな映像がとび出してくる「石ころカチナ」など15点の作品は、メディアアート・ユニット「p1ap1ax」が自然をテーマに製作した視覚・聴覚・触覚などの複数の感覚に訴える体験型の作品ばかりで、小さいお子さんから大人まで十分に楽しめる企画展となっていました。

皆様も是非「金津創作の森」へ出かけてみては如何でしょうか、おすすめします。（板谷）

一 蓮 托 生 (いちれんたくしょう)

托生とは、身を寄せて生きることです。本来は、死後共に極楽往生した際、「一」つ(=同じ)の「蓮」華に身を「托」して「生」きる、という意味です。

そこから転じて、現在では、結果の良し悪しに関わらず、互いに行動や運命を共にする、という意味で使われています。



シリーズ The時代 『吉崎の変遷を辿る』 ～吉崎御坊の多屋と寺内町の繁栄～



真宗懐古抄の中に、吉崎御山の多屋について次のような記事がある。

「本山守護ノタメニトテ、我モ我モ多屋ト号シテ、吉崎ノ山ニ屋宇ヲ立テナラベテ、巳ニ四十八カ寺ノ塔堂出来シ、其外加賀、越前、越中三カ国ノ門徒ノ面々、我劣ヲジト多屋ヲ立テ、葺ヲナラベテ凡二百軒数トナレリ」と記しているが、当時吉崎には多屋が200軒もあって、その中約50軒が御山の上にあった。この時の時代は15世紀

の終り戦国時代の頃であるが、寺院多屋は吉崎御坊所属の寺々の出張所であり、吉崎御坊との連絡所でもあった。

御文の中に、「多屋坊主、多屋内方」と書いてあるのは寺々の坊主であり、多屋坊主の妻女であろう。そして加賀・越中・越前の各地から門徒を引きつれて吉崎へ集り、その門徒らの宿泊所が山下の民宿多屋で200軒もあった。

多くの門徒が吉崎の坊舎へ群参するので、文明4年、蓮如上人は一時吉崎参集を差し止めなければならなかったほどである。

【吉崎再発見 53】 ～吉崎浦のカキ塚專業公認の事～

吉崎浦のカキ貝（イタボガキ科）養殖の歴史は古く、寛永5年（江戸時代1628年）5月11日作成の「吉崎浦のカキ塚絵図」（見谷屋所蔵）には、上様上覧のためと脇書がしてあって、当時の庄屋・見谷屋藤右衛門が越前藩主・松平忠昌上覧のため画工に描かせたものであった。

入江（北潟湖）全域にわたってカキ塚が書きこまれた見事な絵図である。寛永12乙亥5月の「吉崎浦御高持割附、カキ塚持改帳覚」により、大規模なカキ貝養殖の実体が明らかになり、福井藩が吉崎浦の專業として公認していたこともわかる。

この大規模なカキ貝養殖の起源は、少なくとも室町時代にさかのぼると推定される。しかも松杭を海中に打ちこんで、吊るした縄にカキの稚貝を取り付けて養殖する技法は、藩公認の專業となる以前から吉崎漁民の間で行われていた。



～『ミニトマトが食べごろに・・・』吉崎幼稚園～



園庭のミニトマト、「早く大きくなれ！」と、支柱を使い先生といっしょに苗を植え、水やりなどを行いやっと実がつけました。困ったカラス君が来ないように、先生とキラキラテープも張りました。

「早く大きくなあ～れ！」のが届いたみたい★★★
「やったあ～！」いよいよ待ちに待った収穫だ！「太陽の味がするね！おいしいね！」大興奮の園児たち、ぴょんぴょん飛び跳ねて大喜び！、ニコニコ元気パワーで育てたミニトマトの実を収穫する喜びと、食べてみて甘い、すっぱいなどの感動を味わいました。

『駐在さん、だぁ〜い好き!』 −その25−

こんにちは、吉崎駐在所の宮越通安です。

平素は、警察行政各般にわたり多大なご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

1 夏期における水難事故に注意しましょう!

例年、夏期(6月〜8月)には、水による悲惨な事故が数多く発生しています。飲酒・体調不良・監視不足・気候の急変などが、発生原因の大半を占めています。

特に次の注意事項に御留意下さい。また、過去の発生状況を参考にいただき楽しい思い出を作して下さい。

(1) 注意事項

① 遊泳される皆さんへ

・飲酒状態・寝不足では泳がない。

② 保護者の皆さんへ・地域の皆さんへ

・子供から絶対に目を離さない。

③ 釣りをする皆さんへ

・万が一のために、必ずライフジャケットを着用する。

④ プレジャーボート利用の皆さんへ

・遊泳者に危害を及ぼさないように安全な速度と方法で航行する。

(2) 過去5年間の事故発生状況

◎ 発生件数 125件(死者40人)

◎ 発生場所 海が全体の80%、川が15%

◎ 行為別 遊泳が全体の37%、釣り16%、水遊び14%

◎ 被害何代別 小学生21人(15%)、幼児20人(14%)

2 (好評再連載中)泥棒が泥棒を諦める瞬間ベスト10

好評につき、「泥棒が泥棒を諦める瞬間ベスト10」を再掲載中です。今回は第7位を解説付きでご紹介します。泥棒の被害に遭わないのが何より一番大切ですので、皆様一人ひとりの防犯に対する意識が高まり、犯罪の未然防止に役立てば幸いです。

第7位 玄関に警察のポスターやシールが貼ってあった/ パトロール中の警察官に会った

吉崎駐在所では、現在すべてのお宅を巡回中です。また、パトロールも日夜行っております。本職の姿を見て泥棒が逃げて行って欲しかったと思っています。なお、警察のポスターやシールが玄関に貼ってあると有効であると分かりました。巡回中配布しておりますが、急ぎおいらの際にご連絡下さい。ご自宅までお届けします。



忘れ物のお知らせ

「湖畔の夕べ・夏まつり」なぎさ公園会場にて扇子の忘れ物がありました。

吉崎公民館にて、お預かりしています。

お心当たりのある方は吉崎公民館までご連絡下さい。

連絡先：0776-75-1205



【ふるさとクロスワード】

* 答えの解った方は、公民館まで連絡して下さい。正解者には、年度末に素敵な賞品が当たる抽選券を差し上げます。(×切は9月10日)
先月号の回答は「キョウカイ(教会)」で、Bの「十字架」でした。

今月の問題

パズルの中のAからDの4文字を並び替えて組み合わせ、ある県名にして下さい。その県庁所在地は、下の3つのうちのどれでしょうか。

(A ; 宇都宮、 B ; 横浜、 C ; 金沢)

1		7		10	13	16
	■		■	11		C
2				■	14	
	■		■	12	■	
A						
3	6		8		15	
4		■	9			
5						D

【よこのヒント】

- ① ; 戦国武将の黒田官兵衛が仕えた信長の家臣は〇〇。後に豊臣姓を名乗ることになります。
- ② ; 外国からの通信のこと。新聞社やテレビ局では〇〇部と言うものが置かれ、ロイター通信社やAP通信社が有名です。
- ③ ; フランス風の栗の砂糖漬け。パニオで香りをつけた砂糖液にクリを漬け込み、沸騰させないように弱火で加熱して作るのだそうです。
- ④ ; すこし。ちょっと。いささか。
- ⑤ ; 真言宗の開祖「空海」の諡号。吉崎にある国指定史跡「吉崎御坊跡」に立つ「蓮如像」には「慧燈光照(えとうこうしょう)」と書かれてありますが、蓮如上人は明治天皇より、「慧燈大師」という諡号を与えられています。
- ⑨ ; 前回、〇〇、次回。
- ⑩ ; 金と少量の銅との合金で鑄造した貨幣のこと。ちょっと価値が低くなると、銀貨になります。
- ⑭ ; ハタ科の魚で、沿岸性。磯釣りには大変人気があり、肉は白く、刺身、ちりなべ、などにして食べます。

【たてのヒント】

- ① ; マンガ「サザエさん」の作者。
- ⑥ ; 道端の事。生活の手段を失って困窮する事を「〇〇に迷う」なんて言います。
- ⑦ ; 春の末。夏の末は晩夏。
- ⑧ ; 愚かな行為。ばかげた行為。
- ⑩ ; できあがること。みのり。売買取引が成立した時の金額を「〇〇高」なんて言います。
- ⑫ ; 日本の鎖国時代、長崎の出島で貿易を許されていた国は、中国と〇〇。江戸時代の学者の多くが蘭学を学んでいましたが、西洋文化が全てこの国を通じて行われていたからです。
- ⑬ ; 四輪駆動車、略して〇〇。
- ⑮ ; 命ぜられて用たしをすること。また、それを行う人のこと。
- ⑯ ; 歯科医師の指導の下、歯科予防処置、歯科診療補助および歯科保健指導等を行う歯科医療職のひとつ。



おしらせ

「うららん」の
パフレット
あります



- 8月18日(月) 岩崎観音例祭 午後6時30分より
- 8月24日(日) 春日区地藏盆 午後2時より
- 8月31日(日) 吉崎春日神社掃除 午前8時より
- 9月7日(日) 吉崎小学校下合同運動会 午前9時より
- 9月14日(日) 吉崎春日神社例祭(秋祭り)
- 9月25日(木) あわら市プロモーションビデオ上映会 13時30分